

2月だけおクリニック通信① 116号

✽ 糖尿病専門医 田中先生 ✽

こんにちは😊

早いもので2月もおわりですね♪→更新がすっかり遅くなってしまい申し訳ありません><

徐々に気温が暖かくない春の気配を感じるにつれ、ファッションも寒色からパステルカラーへ、分厚いコートから軽やかなトレンチコートへ衣替えをしたくなる今日この頃です(^_^)

ただ暖かくなるのと同時にこの時期悩まされるのは花粉ですね！

日本気象協会によると、今年は前シーズンと比較して花粉飛散量が増加傾向であり、都内では3月上旬～中旬頃にかけてスギ花粉のピークを、4月上旬～中旬頃にかけてヒノキ花粉のピークを迎えるようです。

当院でも既に花粉症を発症し、来院される患者様が多数いらっしゃいます。

どうしても換気がマストな今、花粉の室内への侵入は避けることはできませんが、何とか洗顔やうがい、メガネやマスク装着、抗ヒスタミン薬併用にてなんとか乗り切っていきたいものですね！

さて、今回は新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)ワクチンについてのお話です。

各局ニュースで動向が連日報道されておりますが、2月14日、厚生労働省がアメリカ製薬大手ファイザー社のワクチン(コミナティ®筋注)を国内で初めて承認し、同月17日より、まずは医療従事者を対象に順次投与を開始しております。

厚生労働省のHPによると、2月17日～24日にかけて既に96施設で17888回のワクチンが接種されているようです。

また2月24日には首相より、65歳以上の高齢者の優先接種を4月12日～開始予定との声明がありました。

実際は現時点でワクチン受け入れが想定よりも遅れており、一般への投与が予定より先延ばしになる可能性もありますが、ようやく本邦でも、いままでどこかの国の話題でしかなかったワクチン投与が現実味を帯びてきた印象です。

日経新聞によると、世界での新型コロナウイルスワクチンの接種はすでに91か国に及んでいるようです(2021年2月25日時点)。

今回は、イスラエルでの新型コロナウイルスワクチンの効果を検証した論文(Patterns of COVID-19 pandemic dynamics following deployment of a broad national immunization program)を簡単にご紹介しようと思います。

2月たけおクリニック通信② 116号

イスラエルでは2020年12月より7クチンを導入しており、7クチン導入後の2020年12月～2021年2月上旬の間で①コロナウイルス感染症発症数、②新規入院件数、③中等度～重症例の入院件数、④重症例の入院件数の4項目が経時的にどう変化したかを、保健省が3種の比較を用いて後ろ向きに検証しています。

7クチンの普及率ですが、接種開始2か月で、全国民の約半数が1回目の7クチンを接種しており、優先接種が認められた60歳以上においては既に8割方が2回の7クチン接種を終了しているという結果でした。

まず、7クチンの先行接種を受けた60歳以上の高齢者 vs 60歳未満の若年者で比較したところ、前述の4項目すべて1月を境に、高齢者群で有意な減少傾向を認めました。

(2021/1/15～2/5での21日間での高齢者 vs 若年者での4項目の減少を数値化すると、①→-49% vs -18%、②→-36% vs +10.5%、④→-29% vs +32%)

次に、地域別での比較では、7クチンを早期に導入した地域では導入時期が遅い地域と比較して、高齢者の感染症発症や入院、重症化を有意に減少させました。

最後に、7クチン導入前の2020/10のロックダウン間 vs 導入後の2021/1のロックダウン間で、高齢者群を対象に4項目の推移を比較していますが、1月以降でいずれも有意な減少を認めました。

これらの結果より、高齢者に関しては、優先的な7クチン接種によりコロナウイルス感染症発症や入院、重症化抑制に一定の効果が得られるのではないかと、またその効果は初回7クチン投与の約1月前後より徐々に発現するのではないかと推測されました。

現時点では、7クチン接種の効果や有害事象を含めて、長期間での追跡ができていないことから、7クチン接種の絶対的な必要性は未だ不明ではありませんが、今後データの蓄積に伴い、幅広い人種や年代で7クチンの有効性が実証されることを願ってやみません。

2021年2月発行 第116号

たけおクリニック 総院長 竹尾浩紀

東京都世田谷区太子堂4-22-7 森住ビル3階

スタッフより一言 ★★

特定健診が3月31日までです。

予約制なので早めにご連絡よろしくお願いします。

＼ Gracias ／